

2015年（第6回）

鳥栖・ツアイツ子ども交流事業報告書

平成27年7月26日（日）～8月10日（月）

派遣先：ツアイツ市（ドイツ連邦共和国）



鳥栖市・鳥栖市教育委員会

*目次・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

*鳥栖・ツアイツ子ども交流事業参加者名簿・・・・・・・・・・・・・・ 2

*事前研修・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

*訪問日程表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4～5

*ツアイツ市概要及びツアイツとの交流のあゆみ・・・・・・・・・・・・・・ 6～8

*参加者の感想・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9～19

*日記・・ 20～36



鳥栖・ツアイツ子ども交流事業参加者名簿

【団員】

生徒氏名		年齢(歳) (H27.4.1 現在)	性別
濱邊 和奏	HAMABE WAKANA	12	女
山崎 璃子	YAMASAKI RIKO	12	女
桑原 健伸	KUWAHARA KENSHIN	13	男
松塚 道顕	MATSUZUKA MICHIAKI	15	男
守田 茉央	MORITA MAO	15	女
八尋 花織	YAHIRO KAORU	15	女
岡村 志生	OKAMURA SHIKI	16	男
池尻 満里奈	IKEJIRI MARINA	16	女
徳永 紗友稀	TOKUNAGA SAYUKI	16	女
西木 聖夏	NISHIKI SEIKA	16	女

【引率】

所 属	役職	氏 名		性別
鳥栖市 市民環境部 市民協働推進課 男女参画国際交流係	係長	下川 有美	SHIMOKAWA YUMI	女
鳥栖市 市民環境部 市民協働推進課 男女参画国際交流係	主事	鳥飼 昌弘	TORIKAI MASAHIRO	男

事前研修

○5月31日（日）オリエンテーション

スケジュールについて
団員自己紹介
旅行手続説明
ドイツ滞在中の注意事項
団員リーダー決定



○6月13日（土） 第1回事前研修

ドイツ語（アルファベット、数字、あいさつ）
ドイツ文化（ドイツはどこにある？）
研修テーマの決定
送別会の出し物検討



○6月20日（土） 第2回事前研修

ドイツ語（あいさつ、自己紹介）
ドイツ文化（ドイツの学校）
送別会の出し物検討、練習



○6月27日（土） 第3回事前研修

ドイツ語（自己紹介、日常会話、食べ物・飲み物）
ドイツ文化（戦後のドイツ）
送別会の出し物検討、練習



○7月 4日（土） 第4回事前研修

ドイツ語（自己紹介、覚えておきたいドイツ語）
ドイツ文化（宗教編）
送別会の出し物の練習
日記担当者の決定
ホストファミリー組合せの決定



○7月11日（土） 第5回事前研修

旅のしおり、ホームステイミニマニュアル説明
千羽鶴作成
送別会の出し物の練習
結団式・解団式・事後研修の日程決定



- 結 団 式** 7月23日(木)
- 本 研 修** 7月26日(日)～
8月10日(月)
- 解 団 式** 8月10日(月)
- 事後研修** 9月26日(土)
研修テーマのまとめ
報告書作り
- 報 告 会** 10月24日(土)



訪問日程表

月日	時間	内容	移動方法	備考
7月26日 (日)	6:30	福岡空港国内線集合	各自	
	8:00	福岡空港出発(NH1702便) ～9:00 関西国際空港到着	飛行機	
	10:15	関西国際空港出発(LH160便)	飛行機	
	∫	(時差 -7時間)		
	15:00	フランクフルト空港到着/入国手続		
	16:55	フランクフルト空港乗継/出発(LH160便)	飛行機	
7月27日 (月)	17:50	ライプツィヒ空港到着 ツァイツ市・受入家庭出迎え/各家庭へ	自家用車	ホストファミリーと一緒に
	11:00	ツァイツ市役所 市長表敬訪問 ツァイツ市役所見学(市役所の塔登り)	徒歩	
	12:30	昼食(レストラン)		
	13:30	ツァイツ市内の散策(※雨天中止)		
	14:00	青少年センターでホームステイ家族との交流	大型自動車	ホストファミリーと一緒に
7月28日 (火)	17:00	解散・受入家庭へ帰宅	自家用車	
	9:00	モーリッツブルグ城の見学	徒歩	ツァイツ市学生と一緒に
	11:00	大聖堂の見学		
	12:00	昼食(城内公園の軽食)		
	14:30	モーリッツブルグ城内公園と日本庭園の見学		
15:30	解散・受入家庭へ帰宅	自家用車		
7月29日 (水)	10:00	乗馬体験	徒歩	ツァイツ市学生と一緒に
	12:00	昼食(騎手の家)	馬車	
	14:00	ドラム(太鼓)ワークショップ①		
	16:30	解散・受入家庭へ帰宅	自家用車	

月日	時間	内容	移動方法	備考
7月30日 (木)	9:00	ヴァイセンフェルス警察署訪問	大型自動車	一部のホストファミリー 同行
	10:30	ヴァイセンフェルス区裁判所訪問		
	12:00	昼食(青少年の家)		
	14:00	地下通路見学	徒歩	ツァイツ市学生と一緒に
	15:00	解散・受入家庭へ帰宅	自家用車	
7月31日 (金)	8:00	ブーヘンヴァルトへ出発	大型自動車	
	10:00	ブーヘンヴァルト強制収容所跡訪問(千羽鶴奉)		
	12:00	昼食(ワイマールのケバブ料理)		
	13:00	ワイマール市内見学		
	15:00	ツァイツ市へ移動		ツァイツ市学生と一緒に
	17:00	解散・受入家庭へ帰宅	自家用車	
8月1・2日 (土・日)		ホストファミリーの企画		
8月3日 (月)	8:00	ハレへ出発	大型自動車	一部のホストファミリー 同行
	10:00	チョコレート工場見学		
	12:00	昼食(動物園) 動物園見学		
	15:00	ツァイツ市へ移動		
	16:00	解散・受入家庭へ帰宅	自家用車	
8月4日 (火)	9:00	ドラム(太鼓)ワークショップ②	大型自動車	ツァイツ市学生と一緒に
	12:00	昼食(青少年の家)		
	14:00	カヌー体験		
	16:30	解散・受入家庭へ帰宅	馬車	
8月5日 (水)	8:00	ネブラへ出発	大型自動車	
	9:00	ネブラ博物館見学		
	12:00	昼食(ベトナム料理)		
	13:00	ナウムブルグへ移動		
	14:00	アスレチックの森体験		
	16:00	ツァイツ市へ移動		ツァイツ市学生と一緒に
	16:30	解散・受入家庭へ帰宅	自家用車	
8月6日 (木)	9:00	中部ドイツ褐炭採掘会社見学	大型自動車	一部のホストファミリー 同行
	12:00	昼食(青少年センター)		
	14:00	青少年センターでスープ作り		ツァイツ市学生と一緒に
	18:00	解散・受入家庭へ帰宅	自家用車	
8月7日 (金)	9:00	和食調理(青少年の家)		
	12:00	昼食(青少年の家)		
	13:00	送別会出し物の準備・練習		
	15:00	プール	徒歩	
	18:00	ツァイツ市関係者、ホストファミリーで送別会		ホストファミリーと一緒に
	22:00	解散・受入家庭へ帰宅	自家用車	

月日	時間	内容	移動方法	備考
8月8日 (土)		ホストファミリーの企画		
8月9日 (日)	8:00	ライプツィヒ空港集合・待合/搭乗手続	自家用車	ホストファミリー見送り
	10:45	ライプツィヒ空港出発 (LH161 便)	飛行機	
	11:50	フランクフルト空港到着		
	13:50	フランクフルト空港乗継/出発 (LH736 便)		
8月10日 (月)		(時差 +7時間)		
	8:15	中部国際空港到着/乗継	飛行機	
	10:05	中部国際空港出発 (NH437 便)		
	11:35	福岡空港到着/入国手続・荷物受取		
	12:30	福岡空港出発	貸切バス	
	13:00	鳥栖市役所到着		
	14:00	解団式		

ツァイツ市概要

位置

- ツァイツ市はドイツの北東部にあるザクセン・アンハルト州の南端にあります。
- ツァイツ市はライプツィヒの南西42kmに位置し、ライプツィヒ空港まで車で約1時間ほどです。

面積

87.16 km²

人口

29,639人

特徴

○交通の要所

ツァイツ市は、2つの高速道路A9、A4が近くを走り、市内でB2、B91、B180の3本の国道が交差しています。鉄道は、ライプツィヒ - ゲラ線が通っており、交通の便がよい街です。

○主な工業

化学工業が最も盛んであり、機械工業、環境工学、採炭工業、サービス業があります。

歴史

- 967年、ツァイツが「Cici」の名前で文献にでています。中世の頃、司教の居住地として栄え多くの歴史的建造物が作られました。
- 19世紀半ばに、石炭鉱業が盛んになり、1900年代前半には、化学製品やピアノ、乳母車、褐炭処理機械が世界中に輸出されました。
- 1936年フッペルのピアノ製造工場が、ピアノ製造を停止、戦後工場は閉鎖されました。
- 1949～1990年ドイツ民主共和国（東ドイツ）に属し、計画生産のもと多くの工業が盛んでした。

ツァイツとの交流のあゆみ

年	月	主な内容
1998	10	朝日新聞鳥栖通信局の記者が、フッペル社がドイツのツァイツ市にあったことを確認。
1999	3	「映画『月光の夏』を支援する会」事務局長が鳥栖市長の親書を携えツァイツ市を訪問。朝日新聞鳥栖通信局記者が同行。
	5	ツァイツ市長から交流を推進したいと返信がある。
2000	3	「鳥栖こどもピアノコンクール実行委員会」が、受賞記念コンサートに、ツァイツ市音楽学校校長及び生徒2名とツァイツ市職員を招待。
2001	4～5	「鳥栖こどもピアノコンクール実行委員会」代表、コンクール受賞者2名、秘書広報課長がツァイツ市を訪問。
2002	3～4	ツァイツ市長、学校文化局長が鳥栖市を訪問。今後の交流及び2004年庭園博覧会の日本庭園整備に対する技術協力について協議。
	6	市報でツァイツ市との文通希望者を公募。随時、希望者に手紙を配布し文通が始まる。
	6	鳥栖市緑化協力会会員2名と広報広聴課長が、ツァイツ市を訪問。日本庭園整備のための現地調査を行う。
2003	5～6	鳥栖市緑化協力会会員4名をツァイツ市へ派遣。庭園博覧会会場内に日本庭園完成。
2004	7	鳥栖市長を団長とする総勢17名の訪問団がツァイツ市を公式訪問する。また、庭園博覧会“日本の週”で日本文化を紹介する。
2004	8	鳥栖市の中学生10名、引率3名がツァイツ市を訪問し、ホームステイにて日常生活や学校などを体験。
2005	4	ツァイツ市長をはじめとする4名が鳥栖市を公式訪問。企業視察、伝統文化体験、市民との交流を深め、教育、スポーツ分野での交流について協議。
2005	5	ツァイツ市の学生10名、引率2名が鳥栖市を訪問。ホームステイにて日常生活や学校・日本文化を体験。
2006	1	フッペル平和記念鳥栖ピアノコンクール受賞者がツァイツ市を訪問。ツァイツ市芸術発表会で演奏をするなど、音楽を通じて交流を深めた。
2006	8	鳥栖市の中高生10名、引率3名がツァイツ市を訪問し、ホームステイにて日常生活を体験。
2006	10～11	ツァイツ市の芸術家が、鳥栖市緑化協力会の協力により東公園（ドイツエリア）にモニュメント「月への28の望み」を制作。
2006	11	鳥栖市議会議長をはじめとする5名がツァイツ市を公式訪問し、議会や環境についてなど意見を交換。

年	月	主な内容
2007	5～6	ザクセン＝ツァイツ公国 350 年祭に招待を受け、鳥栖市、フッペル平和祈念鳥栖ピアノコンクール実行委員会、鳥栖市文化連盟の代表者らが公式行事に参加し、ピアノコンクール受賞者が招待客らを前に演奏。
2007	7～8	ツァイツ市の学生 10 名、引率 2 名が鳥栖市を訪問。ホームステイにて日常生活や学校・日本文化を体験。
2008	3	アンナ・マグダレーナ・バッハ音楽学校マティアス・ブッターナー校長及び学生 2 名が鳥栖市を訪問。音楽学校生徒 2 名がピアノコンクール受賞者記念コンサートに出演し、音楽を通じて交流。
2008	7～8	鳥栖市の中高生 7 名、引率 2 名がツァイツ市を訪問し、ホームステイにて日常生活を体験。平和交流の一環として、ワイマール市にある強制収容所跡のブーヘンヴァルト記念館を見学。
2008	7～8	鳥栖市長及び随員 1 名がツァイツ市を訪問。両市の新市長就任により初対面。子ども交流事業の期間中でもあり、子どもたちの交流と一緒に体験。
2009	6～7	ツァイツ市の学生 9 名、引率 2 名が鳥栖市を来訪し、ホームステイにて日常生活や学校・日本文化を体験。
2010	7	第 1 回ツァイツ市砂糖祭に招待を受け、ツァイツ市を訪問。鳥栖市長の代理として鳥栖市副市長、鳥栖市議会議長らが公式行事に参加。
2010	8	鳥栖市の中高生 10 名、引率 2 名がツァイツ市を訪問し、ホームステイにて日常生活を体験。平和交流の一環として、ワイマール市にある強制収容所跡のブーヘンヴァルト記念館を見学。
2011		東日本大震災によりツァイツ市からの来日が延期。ツァイツ市からの義援金約 233 万円が鳥栖ロータリークラブへ送金。この義援金は、鳥栖市長より気仙沼市長へ届けた。
2012	5	ツァイツ市長をはじめとする 4 名が鳥栖市を公式訪問。友好交流都市協定を締結。エネルギー関連企業等の施設を視察し、さまざまな意見を交換。 ツァイツ市の学生 10 名、引率 2 名が鳥栖市を来訪し、ホームステイにて日常生活や学校・日本文化を体験。
2013	7～8	鳥栖市の中高生 10 名、引率 2 名がツァイツ市を訪問し、ホームステイにて日常生活を体験。平和交流の一環として、ワイマール市にある強制収容所跡のブーヘンヴァルト記念館を見学。ツァイツ市へ水害義援金約 159 万円を贈呈。
2014	5～6	ツァイツ市の学生 10 名、引率 2 名が鳥栖市を来訪し、ホームステイにて日常生活や学校・日本文化を体験。
2015	7	国立歴史民俗博物館で行われた「ドイツと日本を結ぶもの一日独修好 150 年の歴史」に、両市の交流の歴史についてパネルを出展し、「日独友好関係者の集い」で、ツァイツ市が鳥栖市との交流事業について事例を発表。

団員の感想





「親愛なるツアイツの家族 Part 2」

濱邊 和奏

私が交流事業に参加したのは、約束を果たすためです。2年前に兄がツアイツ市を訪れ、去年コンラートが私の家にホームステイしました。一緒に過ごした2週間は楽しくて「来年ツアイツで会おう」と約束しました。お互い面接をパスして見事に夢が実現！そしてホームステイ先までコンラートの家だったので、運命だ！と思いました。

そこで思いついたのが、私の家に可愛いラッピングのプレゼントを送ってくれ、コンラートやパパがとても大切にしているママに、日本ならではのプレゼントをすること。

作戦1：日本のカレーライスを作ってあげる。

ドイツはジャガイモが主食の国なので、ママや家族にも喜ばれると思いました。カレーのルーとコンソメ、白ご飯を持って行きました。土曜日の昼食に内緒で作ることにして、金曜日にスーパーに買い物に行った時に玉ねぎと人参を買いました。コンラートと満里奈ちゃんと材料を切り、煮込んで、隠し味にツアイツのはちみつを入れて完成！白ご飯はレンジで温めました。



自分たちで好きな量のカレーとご飯をよそって「ゲーテンアペティート！」でも、カレーの写真ばかり取られました。「ベリーナイス！」「おいし〜い」パパもママも知っているいろんな言葉で褒めてくれて嬉しかったです。私も久しぶりの日本のカレーライスが美味しくて、本当に作ってよかったと思いました。

作戦2：浴衣を着てみせ、帰りにママにプレゼントする。

去年、コンラートたちは着物をきて日本舞踊を教わったことを、ドイツのパパとママが日本の伝統文化を教わる貴重な経験だと言っていました。そこで、「浴衣なら私にもできる！」と思いました。「ツアイツでママに着せてあげたい」と2着の浴衣を持って行き、満里奈ちゃんと私で着て見せると、またまた写真撮影会。この時、ママはこの浴衣が自分にプレゼントされるとは思ってもいなかったことでしょう。



日本へ帰る前日、荷造りを手伝ってくれていた時にママに浴衣をプレゼントしました。「Me?」ママはとても喜んで驚いて泣いてしまい、私ももらい泣きしました。リビングでママに浴衣を着せてあげて、家族だけの、最後の貴重な時間。兄から話を聞いてから2年間待ってやっと会えたママ、一緒に過ごすのが2週間では短すぎました。家族だけの大切なひと時は私の心に大切にします。

コンラートの家族とは離れているけど、運命で結びつけられています。これからも、私たち家族の交流は深まり続けます。来年コンラートを鳥栖に迎えて、次は私の家族みんなまでツアイツの家族に会いに行きます。





「研修を終えて」

山崎 璃子

私は、今回初めて海外に行きました。また、家族と16日間も離れて過ごすのも初めてでした。行く前は、ちゃんと言葉が通じるのだろうか、ドイツの方や一緒に行く団員の皆さんと仲良くなれるのだろうかなどの不安な気持ちが楽しみだという気持ちより大きかったです。

しかし、実際にドイツに行ったら、ドイツの方々は私たちが温かく受け入れてくださり、なんとか言葉も通じてホストファミリーや団員の皆さんと仲良くなれたので充実した毎日を送ることができました。



ドイツでは、行く所一つひとつが新鮮でとても勉強になりました。ブーヘン

ヴァルト強制収容所跡は、強制収容所の中でも小規模なのに、とても広くて驚きました。この場所でたくさんの方が亡くなったそうです。いろいろな展示物を見ました。ワイマール強制収容所の歴史を学ぶことができました。

ドイツと日本は、たくさんの違いがありました。一番驚いたのは水です。ドイツでは普通炭酸水を飲むそうです。私は、いつも普通の水を飲んでいるので、初めて飲んだ時は驚きました。街並みはとてもきれいで信号が縦でした。建物はレンガで造られたものが多く、道路も石を組み合わせて出来たものでした。ご飯はほとんどがパンで、飲み物は水かジュースでした。とてもおいしかったです。

ホストファミリーのアレクサンドラは、とてもやさしくて親切にしてくれました。私は英語が上手ではないので、気持ちを伝えるのが少し難しかったです。でもアレクサンドラは、私の英語をちゃんと理解してくれました。とてもうれしかったです。



今回は、この貴重な体験が出来て本当によかったと思います。この体験で学んだことを生かし、これからはいろいろな事に挑戦したいと思います。ドイツの方々、引率の下川さん鳥飼さん、この研修に私を参加させてくれた皆さんに感謝しています。ありがとうございました。





「研修で学んだこと」

桑原 健伸

僕は、この研修に行く前、事前研修があったり、結団式・解団式があったりと、めんどくさいな、友達と遊べなくなっていやだなと思っていました。他にも、家族と16日間会えないさびしさと、言語が違う不安もありました。

しかし行ってみると、ホームステイ先の家族はとても優しく、すぐにドイツが好きになりました。会話をするときは、身ぶり手ぶりでがんばりました。伝わったときの喜びはとても大きかったです。

夜は日本とドイツの優れているところを紹介し合いました。英語で話しているのに、まるで日本語で話しているかのように話がはずみました。ドイツ語は使わなかったのですが、いつも英語に囲まれていたので、リスニング力とコミュニケーション力がついたと思います。日本に帰った今では、ドイツの生活が幻のように感じられます。もっと長い間ドイツにいて、ドイツ人・日本人両方の友達と絆を深めたかったです。こんなにすばらしい経験を企画してくださった方々と、両親とホストファミリーに感謝します。



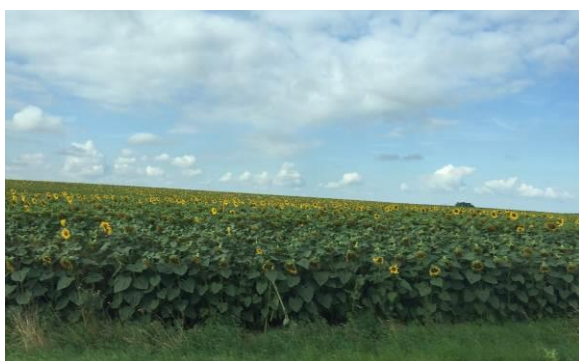
「ドイツと日本の違い」

松塚 道頭

僕は今回の研修で、ウルフ家のシモンくんにお世話になりました。シモンは普通科高校に通っており、僕と同じ16歳でとても明るい性格でした。

初日は飛行機で疲れていましたが、空港のゲートを出た時、ホストファミリーの方々の出迎えがとても嬉しかったです。最初は緊張と恥ずかしさで、なかなか自分から話しかける事が出来ませんでした。ホストファミリーが積極的に関わってくれて、徐々に自分からも話題ができるようになりました。また、他のホストファミリーとも仲良くなることができました。

シモンは自身の友達がとても多く、研修の後半は、ほとんど毎日、彼の友達のパーティーにいたり、家に友達を招いて、BBQをしたりプールに入ったりしました。そのような社交性は日本とは違うなと感じました。



また、シモンの家は、卓球台やプール、サッカーゴールにバスケットゴールがあり、とても大きな家と庭で、池もありました。僕の家は郊外ですが、それでも同じ郊外でも日本とはとても違うなと感じました。日本とドイツでは、面積では日本の方がやや大きいのですが、それが逆

に感じるほど、とても大きかったです。

彼の家は両側が小麦畑で、近くに、風力発電機が多くありました。また風も乾燥していて強いため、発電機もよく回り、日差しが強いと感じる日も、風が吹くととても涼しかったです。ドイツは日本と同じようで、実際には、まるで違いました。

この経験を忘れないように、また活かすために、来年彼が日本に来るまでに、少しでもドイツ語が使えるようになれたらいいな、この経験を何らかの形で将来に繋げていきたいと思いました。

今回の研修でLINEのグループが出来た事で、僕たちとドイツのホストファミリーの間で、この先も更に親交を深めていける事を楽しみにしています。この経験は僕にとってかけがえのないものになり、忘れられないものになりました。来年、ドイツの方々が来る際は、僕がしてもらった以上のおもてなしをしたいと思っています。



今回の研修に協力して下さった下川さん、鳥飼さん、市役所のみなさま、家族、ホストファミリーに深く感謝します。本当にありがとうございました。



「最高の仲間と最高の海外研修」

守田 茉央

「どうしよう…。行きたいけど、不安すぎるな…。」というのが、私の最初の気持ちでした。でも、選考に受かって何かを認められた気がして前向きになれたし、何よりも家族や友達の応援がこのホームステイを最高のものにしてくれた気がします。

出発前には色々な気持ちがありましたが、ドイツの空港でとても暖かく迎えてもらい、これからの16日間で楽しみで仕方なくなりました。しかし、思っていることが正しく伝わっているのか分からないし、会話も弾まないし、最初の2日間くらいは本当に辛かったです。でもそんな時、時差がある中メールしてくれた皆がいて、ドイツで活動を共にする仲間がいて、本当に救われました。当たり前のことが素晴らしいことだと初めて気づいた気がして、しっかり考えて自分なりに大事にしていこうと思えました。



ドイツでのプログラムはどれも楽しくて、日本ではできない体験や異なった文化、考え方などたくさんの面白い発見がありました。そして今の私だからこそ感じることもあって、自分の成長に繋がったと思います。

そんな研修の中で私が1番心に残ったのは「人と人とのつながり」です。また、何事にも挑戦し、行動を起こすことの難しさと大切さも学ぶことができました。本当にたくさんの素晴らしい出会いもありました。ドイツの人達の優しさや、笑顔でのあいさつや気軽に話しかけてくれたりなど、たくさん魅力を持った人達ばかりだと改めて感じました。私もドイツで受けた刺激を自分のものにして、次は私が誰かにいい刺激を与えられるような人になれるように頑張りたいです。

今回、この交流事業の団員になれたこと、大好きな下川さん、鳥飼さん、そして団員の皆に出会えたことに私は本当に感謝しています。今回の研修で、将来の夢を必ず叶えたいという思いも強くなったし、英語だけでなくドイツ語にまで興味ができてしまいました。そして将来ドイツの大学に行きたいなとも思うようになりました。この今の向上心をずっと忘れず、下川さんがしてくださった話と一緒に大切にしていきたいです！そして将来必ず、夢を叶えて大きくなって下川さんや鳥飼さんにお礼を言いに行きたいと思っています。





「私が大好きなドイツ」

八尋 花織

私は普段自分が使っている言葉が全く通じない場所で2週間過ごすのは初めてでした。私は英語の授業が好きですが、普段の生活の中で外国の方としゃべったりする機会があまりなかったので不安でもあり、とても楽しみでした。

空港に着くと、ホストファミリーがあたたかく私を迎えてくれたので、とても嬉しかったです。研修を重ねるうちに、日本のメンバーともドイツのメンバーとも仲良くなることができ、かけがえのない友だちをつくることができました。1番大変だったことはやっぱり英語でコミュニケーションをとることでした。



自分の伝えたいことを伝えることができなかつたり、もっとしゃべりたいのに、上手くしゃべれなかつたりして、悔しくなるときもありました。私は、英語を上手には話せないなので会話が成り立つのかをとても心配していました。でも、大切なのは完璧な英語ではなくて、伝えようとする努力と、相手を理解しようとする姿勢、それから笑顔だということが分かりました。

私がドイツに行って驚いたことは、環境への取り組みです。ドイツでは飲料水の値段には容器代が含まれています。飲み終えて、ペットボトルなどの容器を返すことでお金が返ってきます。だから、ドイツの人はペットボトルやビンなどを捨てたりせずリサイクルしていました。このような仕組みがあるから、ドイツの人は環境問題への意識が高いのだと思いました。

私はたった2週間でたくさんの人たちに出会いました。そして私はドイツの人、街、食べ物などすべてが好きになりました。英語やドイツ語の勉強をしてまたツァイツ市に行きたいです。ドイツでできた友だちや、ホストファミリー、この事業で関わってくださった人たちとの出会いを大切にしていきたいです。

また、ドイツに行かせてくれた両親や、私たちを団員に選んでくださった鳥栖市役所の方々に感謝しています。私は鳥栖市とツァイツ市をつなぐ架け橋の一人になれたことをとても誇りに思います。本当にありがとうございました。





「ドイツでの最高の思い出」

岡村志生

ドイツに行く前は言葉が通じるか、1人で他人の家に2週間も住めるかなど不安がりましたが、Quentinやホストファミリーは優しく喋りかけてくれ、自分のあやふやな英語でもなんとか会話をすることができました。

ドイツでは何をやるにしても驚きと好奇心でいっぱいでした。しかし、相手に伝えるには言葉が必要で、自分の英語力のなさに悩まされました。特に土日の家族で出かける日は、助けてくれる人がいないぶん、言語の壁を強く感じました。でも、ドイツでの生活を楽しめたのは、ホストファミリーやドイツの友達が優しくしてくれ、また、一緒に楽しんでくれたからだと思います。



一番楽しかった思い出は、いとこの家でのBBQとバギーに乗せてもらったことです。自分が行く家には必ずと言っていいほどプール付きの庭があり、いとこの家では庭のプールに入りながらBBQを楽しむという、大金持ちのようなことを体験しました。やはり何をやるにしてもスケールが違うというのがドイツに来ての感想です。

そして、ゲームをしたり泳いだりソーセージを食べたり…と、最高のBBQパーティーをすることができました。夏のドイツは日が長いので、遅い時間でも十分に遊ぶことができました。ドイツは本当にうらやましいです。

その後はバギーに乗せてもらい、刈取った後の麦畑をバギーで爆走！ガタガタ道で捕まっているのがやっとなりました。爽快感があつて気持ちよかつたし、奥まで続く麦畑は綺麗だったので、いい思い出ができたと思います。

この2週間でたくさんのことをドイツで体験することができました。地下通路や、乗馬、カヌー…。ドイツの友達と話すことも最高の経験だったと思っています。

そんな様々な体験の中でドイツの友達と交流を深め、家に遊びに行ったり、一緒に買い物したりと、楽しい日々を送れたことが一番良かったことです。自分は最高の友達をド



イツでつくることができました。

そして、この素晴らしい体験ができたのは下川さんをはじめ、大勢の方の協力があったからだと思っています。本当にありがとうございます。この最高に楽しかった2週間を、今度はQuentinたちドイツの友達にも日本で体験してもらえるように感謝を込めておもてなしをしたいと思います。そして、次会う時はもっとコミュニケーションがとれるように、頑張つて英語を勉強します。





「私がこの事業に参加して感じたこと」

池尻 満里奈

私がこの事業に参加して感じたことが二つあります。

一つ目は机上の勉強では学べないことをたくさん学び、異なる言語を話すことが大好きになったことです。

ドイツ初日、空港から車で家まで移動した時、英語もうまく聞きとれず、これからやっていけるかなと無言の車内の中不安を感じていました。今まで英語は得意と思っていたけれど、全然聞きとれず、私は英語不得意だったのかもしれないとさえ思っていました。しかしこんな気持ちで二週間過ごすのは勿体無い！と思い、自分から積極的に話すことを決意しました。

それからというもの、どんどん英語やドイツ語を話す楽しさに気づきました。特に疑問文が通じた時の喜びは今でも忘れられません。

英語を話して通じるとそれが自分の中の大きな自信に変わりました。将来英語に関わるお仕事に就きたいと考えていた私にとって、この事業は自分の将来を決めると言ったら大げさかもしれないけどそれほど大事なものでした。

机上の勉強のなかで模試の英語が悪かったりすると、やっぱり向いていないのかな、将来英語を使ってお仕事なんてできるのかなと不安に感じていました。この事業は私に「私は英語が大好きなんだ」と忘れかけていた気持ちをよびおこしてくれました。

二つ目は人との出会いが自分を大きく変えてくれるということです。私がこの事業に参加しなければ出会うことがなかったであろう人々。団員のみんな、下川さん、鳥飼さん、ドイツの友達、ホストファミリー、通訳のフェリックスさん。このほかにも沢山のひとと出会い、そしてその出会いが私に新たな考え、価値観をもたらしてくれました。

この事業は私にたくさんの刺激を与えてくれました。今までは全く知らない土地のニュースだったのが、今ではドイツのニュースが友達の国のニュースになり、もっと知りたいと興味湧くようになりました。初日、あれほど静かだった車内が最終日には会話が飛びかうほど、ホストファミリーとも仲良くなることができとても嬉しかったです。

この交流事業で得たものはこれからの人生でも自分の励み、糧になるだろうと確信しています。一生の宝物ができました。私たちがツアイツと鳥栖の架け橋になることができたことをとても誇りに思います。この事業に参加させてくれた両親そしてこの事業に関わってくださったすべての方々に感謝の気持ちでいっぱいです。

ありがとうございました。





「忘れられない16日間」

徳永 紗友稀

16日間のホームステイ。とても楽しくあっという間の16日間でした。ドイツにいた日は、緊張でホストファミリーとうまくコミュニケーションが取れず、不安になりましたが、少しずつ耳が慣れ、自分の言いたいことも少しずつ伝えることができました。ホストファミリーの笑顔と優しさのおかげでとても安心することができました。毎日夕食が終わると写真や映画を見せてくれたり、カードゲームやアクセサリーの作りかたを教えてくれて一緒にしたりしてくれました。休日は車や電車に乗って様々なところに連れて行ってくれました。

ドイツでの16日間、本当に様々な経験をし、見ることができました。警察署、裁判所、チョコレート工場や動物園、ビリヤードやカヌー、プールや乗馬。初めての経験もいっぱいありました。どの場所でもドイツの人の優しさに触れ、感謝でいっぱいです。



土曜日、日曜日はホストファミリーにミュンヘンに連れて行ってもらいました。とっても大きい街でたくさんの美しい建物があり人であふれていました。シンデレラ城のモデルにもなったといわれているノイシュヴァンシュタイン城は山の中にあって、雲が少しかかっている、とても幻想的できれいでした。ドイツのお城の壁に描かれている絵は髪の毛一本一本まで繊細に書かれていてどれもきれいで感動しました！

本当に毎日が楽しすぎて、ホストファミリー、ドイツの友達、日本から一緒に来た団員とのお別れはとてもさびしくて、もっと長くドイツにいたいと思いました。空港で見えなくなるまでずっと手を振ってくれたホストファミリーやドイツの友達。本当にお別れはさびしいけど、来年また会えると思うと楽しみでとってもわくわくしています。

もっと英語を勉強して、今年よりもコミュニケーションをとれるようになりたいと思いました。このドイツでの16日間は、私の中で忘れられない素晴らしい思い出になりました。高校生のこの時期に素晴らしい経験ができて本当に良かったと思います。この研修に行けたのは家族やホストファミリー、先輩、友人やこの研修に関わってくださった様々な人のおかげです。感謝の気持ちを忘れないで、これからの生活に生かしていきます。最高の16日間でした！ありがとうございました！





「笑顔いっぱいの2週間」

西木 聖夏

ドイツに行った約2週間、毎日がとても充実していてすごく楽しかった。行きのフライトはとても長かったけど、着いてみれば見慣れない風景に感動し疲れが吹き飛んだ。ライプツィヒの空港を出るとプラカードを持ったホストファミリーが待っていてくれた。私はワクワクしながらレアを探した。すると1人の女の子と目が合った。私はすぐにこの人がレアだと分かった。私はこの2週間が楽しいものになると確信した。

まず、最初に驚いた事は、ツァイツ市は自然豊かな地で、羊や牛、鶏などたくさんの動物がいたことだ。また、どこの家も庭が広くてプールや卓球台やトランポリンがありスケールの大きさに驚かされっぱなしだった。庭のガーデニングはとても綺麗で心が癒された。次に驚いたことは、プールの入り方だった。プール用のウェアをきて入ると係のおじさんが目の前で笛を鳴した時は驚いた。ドイツではビキニが当たり前でウェアをきるのは禁止だった。その他にも、ベルリンの信号機はとても可愛いマークで、ドイツに来て初めて信号機のマークは全世界共通ではない事を知った。

私が一番心に残っている事は、最後の日の送別会だ。各家庭から料理を持ち寄り、送別会が始まった。私たちは、お好み焼きや焼きそば、肉じゃがを作った。ドイツ人の方々が喜んで食べている姿を見てすごく嬉しかった。食事や出し物が済んだあと、恒例の卓球とテーブル・サッカーが始まった。ほぼ毎日やっていたので特に卓球はみんな上達したと思う。楽しいひと時はすぐに過ぎ、その日のお別れが辛かった。それはドイツ人の人達も同じだったようで次の日の休日は、みんな揃って出かけるようにしてくれていた。みんなでタワーに登ったりお土産を選んだりすごく楽しかった。

最後の日、いよいよ本当の別れの時間が近づいてきた。別れるのが悲しくて泣いている人もいた。私はレアの家族に感謝の気持ちでいっぱいだった。2週間前まではあった事もない、国籍も違う人達とこんなにも仲良くなって別れが辛くなるとは考えてもいなかった。たった2週間だったけど、私にとっては一生忘れられない出来事になった。こんな思いや経験が出来たのも家族のおかげだし、この企画を考えてくださった鳥栖市とツァイツ市の皆さんをはじめとする多くの方のおかげだと思います。感謝の気持ちでいっぱいです。それに一緒にドイツに行った下川さん、鳥飼さん、学生のみannaにも感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。今年の夏、私たちがドイツ人の皆さんにしてもらったように来年の夏は、来て良かったと思ってもらえるようなおもてなしをしたいです。



日記





日時：平成27年（2015） 7月26日（日曜日） 天気：晴れ



今日の日程

福岡空港 → 関西国際空港 →
フランクフルト空港 → ライプツィヒ空港
→ ホストファミリーの家へ

初めての海外。そして初めてのホームステイ。ドイツはどんなところなのか、ホストファミリーはどんな人なのか、というわくわくと親元を16日間も離れること、自分の言いたいことをちゃんと伝えられるのか、という不安など様々な気持ちを抱えての出発でした。

最初の飛行機の福岡から関西国際空港までは1時間くらいについて、きっとドイツまでもあっという間なのだろうという気持ちでいたけど、やっぱり12時間は思ったより長くて少し疲れました。フランクフルトからライプツィヒまでの飛行機はドイツの街並みが窓から一望できました。真っ赤な統一された屋根に緑の森や畑。まるでおもちゃの世界のような景色に感動しました。

空港にホストファミリーが迎えに来てくれたからの家までの車の中は、緊張してほとんど話すことができず、とても不安な気持ちでいっぱいになりました。食事をしてお土産を渡してから少しずつ会話も増え、不安も取れてきたけど、まだまだホストファミリーが言っていることをちゃんと聞き取ることができないし、自分の言いたいこともうまくつたえることもできない私を熱心に聞いてくれて、話してくれるホストファミリーにとっても感謝しています。温かい家族で本当に良かったな、と思いました。

これから、まだまだ困ることや不安なこともたくさんあると思います。でも、そんなときもあきらめないでたくさんコミュニケーションをとって、つらいことも楽しいことに変えられるように頑張りたいです！

これから16日間精一杯楽しみます！

担当： 徳永 紗友稀





日時：平成27年（2015） 7月27日（月曜日） 天気：雨



今日の日程

ツァイツ市役所で市長表敬訪問
ルスティカで昼食
ツァイツ市内散策（雨天中止）
青年の家でホストファミリーと交流

ドイツに来て初めての朝食はウインナーとサラダ、パン、湯がいたポテトに焼いた卵を入れたものだった。パンを3枚食べ昨日の疲れも取れ安心したせいか朝から幸せな気分だった。ドイツに来る前、レアから「ドイツで食べたいものは？」と聞かれ「ドイツで有名なウインナー」と答えていた。朝食にウインナーが出て凄く嬉しかった。しかも3種類もあり、特に美味しかったのは中にチーズが入っているウインナーだった。

ツァイツ市役所はまるで美術館のように大きく、そのうえ、すごく綺麗で圧倒された。最初にクンツェ市長表敬訪問をした。中に入ると市長さんをはじめツァイツ市の関係者、テレビ局の方などがたくさんいて緊張したが、皆さん笑顔で受け入れてくれたのでドイツ語の自己紹介も楽しめながらできた。市役所庁舎の見学では、市役所の塔に登って外を眺めるとツァイツ市を一望できた。近くには赤い屋根の建物が建ち並び、遠くには広い畑や湖が広がり今まで写真の中でしか見たことがなかった風景を実際に見る事ができてとても感動した。ずっと海外に行くことを夢みていた私は、とても嬉しかった。

昼食は市役所の近くのお店で食べた。ポテトやお肉、野菜があり、どれもとても美味しかった。市長さん達と一緒に食べることができてとてもいい時間を過ごせたと思う。

市内を散策する予定は雨が降り出し中止になった。凄く残念だったが昼食を食べたお店までの道中で見たツァイツ市の町並はとて美しくそれだけでもツァイツ市がどれだけ素敵な街か分かった。その後、青少年センターで遊ぶことになり、ビリヤードや卓球台などいろいろな遊び道具があった。どれも楽しくてドイツの子ども達も含めみんな夢中になって遊んだ。特に楽しかったのはビリヤードで、また明日もしたいと思う。

皆とお別れした後、レアが町で一番大きなスーパーに連れて行ってくれた。そのスーパーでは驚くことばかりだった。まず、カートはコインを入れて取り出し、元の位置に戻すとコインが戻ってくる仕組みになっていた。次に商品の種類の多さに驚いた。ジュースだけでも数10種類あり、グミに至っては軽く20種類を超えていて凄すぎた。

帰宅すると夕食が出来ていてグラタンのようなものだった。食卓ではホストファミリーが私にたくさん話しかけてくれてとても嬉しかった。私のつたない英語も一生懸命に聞き取ってくれてこれもまた嬉しかった。今日は楽しすぎて1日がとても早く感じた。とてもいいことだと思う。明日もドイツを楽しみたい。 担当： 西木 聖夏





日時：平成27年（2015） 7月28日（火曜日） 天気：晴れ



今日の日程

モーリツブルグ城見学
ドーム教会見学
城内公園で昼食
城内公園と日本庭園の見学
⇒各家庭へ

ツァイツについて3日目になりました。日本のグループの人ともドイツの人とも日に日に仲良くなれているように感じます。私は日本風のお城ばかりを見てきたので、西洋のお城を見学することができて嬉しかったです。

ツァイツ市は昔、ベビーカーを生産していたそうなので、モーリツブルグ城の中には、たくさんのベビーカーがありました。私たちはベビーカーからドイツの歴史の流れを学ぶことができました。かつてのベビーカーは高価で（現在も）一般の人が買うことはできなかつたそうです。しかし、後に1ヶ月分のお給料で買えるベビーカーができ、人々の間で使われるようになったということが分かりました。今でもベビーカーは1000ユーロ（13万5千円）くらいすることに驚きました。

昼食をお城の公園の敷地内で食べました。料理はとても美味しかったですのですが、一人分の量が多くてビックリしました。それからみんなで遊びました。ドイツの子たちが「みんなで遊ぼうよ」と言ってくれたことが本当に嬉しかったです。

次に私たちは日本庭園を見に行きました。日本からこんなにも遠い国ドイツで、日本の文化が知られていることが凄いなと思いました。日本庭園が一度壊れてしまったのに、ドイツの学生さんたちが造り直したそうです。日本の文化が大切にされていることが分かり嬉しかったです。

ドイツの人たちはとても優しく「Hallo!（ハロー）」といったら、あいさつを返してくれます。もっとたくさんの人とコミュニケーションをとりたいです。

担当： 八尋 花織





日時：平成27年（2015） 7月29日（水曜日） 天気 晴れ



今日の日程

乗馬体験
騎手の家で昼食
ドラム（太鼓）ワークショップ①
解散

今日はまず騎手の家で乗馬クラブ体験をした。馬に乗るのは初めてで最初は蹴飛ばされな
いかとか、落ちないかとか心配だったけど、最初触ったときにすごくおとなしく、何もしないから大丈夫だと思
い、安心して乗ることが出来た。その後はただ乗るだけでなく、後ろを向いて乗ったり、その場で立ってポーズをと
ることが出来た。そしてなにより馬の毛立ちはすべすべで気持ち良かった。

乗馬が終わると、全員で馬車に乗りツイツ市内を観光した。たった2頭で16人もの人を乗せて歩いてくれたから、「馬はと
てもきついだろうな…」と池尻さんが馬の気持ちで語っていたのが面白かった。だけど、馬車自体は馬の足音と町の風景
のおかげでとてもどかな気持ちになれて最高だった。

最後はドラムをたたいてリズムゲームみたいなものをした。音楽はやっぱり楽しいし、リズムに乗ることが出来てと
てもいいなと思った。

昨日と今日通訳をしてくれたロバートと今日でお別れ。彼のあどけない日本語と一つひとつの仕草が面白くて愛ら
しかったのに残念。また彼に会えればいいな。

担当： 岡村 志生





日時：平成27年（2015） 7月30日（木曜日） 天気：晴れ



今日の日程

ヴァイセンフェルス警察署訪問
ヴァイセンフェルス区裁判所訪問
昼食
ツァイツ地下通路
解散

今日は、貴重な体験がたくさんできる一日でした。まず始めに、ヴァイセンフェルス警察署に行きました。この警察署はとても古くすてきな建物でした。中に入って警察の方からお話を聞きました。

一番印象に残っている場所は留置場です。その中は、何もなくてドアが厚くがんじょうでした。その後、外に出てパトカーを見たり、拳銃を持ったりしました。パトカーは、日本と違ってシルバーと青の色の組み合わせでした。拳銃を持たせてもらった時、思っていたよりも重たくて少し驚きました。防弾チョッキも重たくて、これを着て過ごす警察の人はすごいなと思いました。日本ではできない体験ができて、とても楽しかったです。

次に、ヴァイセンフェルス区裁判所に行きました。外は工事中で見ることができなかつたけど、中は入って見ることができました。とても古くてきれいな建物でした。裁判長の方にこの裁判所について教えていただきました。この裁判所では、1年間に数え切れないほど裁判を行っていて、ドイツにも裁判員制度があるそうです。お話を聞いた後、実際に法廷に入って検察側の席に座ってみました。日本の裁判所とほぼ同じでした。なかなか入れない場所に入れたので、とても良い経験になりました。

その後、ツァイツ市に戻って地下通路を見学しました。中は少し涼しかったです。この場所は、1年間12℃に保たれているそうです。とても古い歴史があることを知りました。

今日は、日本でできない体験がたくさんできてとても楽しい1日になりました。

担当： 山崎 璃子





日時：平成27年（2015） 7月31日（金曜日） 天気：晴れ



今日の日程

ブーヘンヴァルト強制収容所跡訪問
昼食
ワイマール市内見学
解散・受入家庭へ帰宅

今日は強制収容所に行きました。授業でボヤッと習った内容だけでなく、実際に行って肌で感じる事が出来て良かったなと本当に強く感じました。収容所に行けたことで、毎日の生活や普段の当り前のことへの感謝の気持ちが大きくなった気がします。また、看護師になって国境なき医師団に入るとい夢を絶対にあきらめず、“必ず叶えたい！”と思いました。そして、初めてケバブを食べて、大きくて“Lecker♡♡”（レッカー：美味しい）でした！

午後はワイマールでの自由時間を、マリーと一緒に過ごしました。買い物をするとかやばり、言葉の壁やお金を支払う難しさなどを感じるけど、ドイツの人たちはやさしく教えてくれるからとても安心しました。そして、自分で作るブレスレットを買ったので、マリーと一緒に頑張って作ります。

そして、夕方はマリーのおばあちゃんの家に行きました。おばあちゃんもおじいちゃんも笑顔が素敵で、私にもとてもよくしてくれました！

夜もレアと聖夏先輩が来てくれて、卓球したりゲームしたりしました。まさかのドイツに来てボカロを教わりました。スポーツは人と人とを結ぶ、というのは本当だなと思いました。Super！（ズーパ！素晴らしい！）

私がドイツに来て思うのは、時間がとてもゆっくり過ぎていくということです。夜遅くまで明るいせいかもしれないけど、それよりもドイツの人が皆おだやかでいつも笑っているからのような気がします。だから私もそういうところを少しでも吸収できたかなと、と思います！

バイバイ7月

担当： 守田 茉央





日時：平成27年（2015） 8月 1日（土曜日） 天気：晴れ



今日の日程

受入家族の企画

昨日の夕方から、4時間くらいかけて、ドイツ南の都ミュンヘンに連れてきてもらいました。ミュンヘンの近郊に住んでいるホストブラザーの家に泊めてもらっています。

今日は朝食を食べてからみんなでテレビゲームをして、そのあと電車に乗ってショッピングに連れて行ってもらいました。最初はタワーに上ってミュンヘンの美しい景色を眺めました。とてもきれいで感動しました！そのあともさまざまな名所を案内してもらいました。どの場所もとてもきれいでたくさん写真をとれました。宮殿庭園を訪れた時に路上で水を入れて水の量を変えただけ数個のグラスと指だけで演奏しているおじさんがいました。とてもきれいな音色で指とグラスだけで演奏しているようには見えず、驚きました。世界にはさまざまな特技を持った人がたくさんいるのだと思いました。

昼食はドイツでも有名なホーフブロイハウスにつれてもらいました。とても広くて大きなお店で、観光客でにぎわっていて、日本人もいました。ホストファミリーは1リットルのビールを飲んでいました。とても大きくて驚きました。私はパスタを食べました。とてもおいしかったです！

ショッピングは紅茶や洋服などを買うことができました。ドイツの民族衣装も着させてもらいました。ドイツの民族衣装はとてもかわいかったです！また、買い物をするときはなかなか自分の言いたいことを伝えることが難しく、電子辞書とジェスチャーで何とか伝えることができました。自分の言いたいことが伝わったときはとてもうれしかったです。もっと英語を勉強して自分の言いたいことをスムーズに伝えられるように頑張ろうと思えました。

明日はディズニーランドにあるシンデレラ城のモデルにもなった、ノイシュヴァンシュタイン城に連れて行ってもらえるそうです！！ディズニーもシンデレラも大好きなのでとても楽しみです！

担当： 徳永 紗友稀





日時：平成27年（2015） 8月 2日（日曜日） 天気：晴れ



今日の日程

受入家族の企画

今日は、ドイツに来て初めての日曜日でした。家族みんなでベルリンへ行きました。朝の8時ごろから家を出て、マクドナルドで朝ごはんを食べました。私はイングリッシュマフィンにソーセージと卵とチーズがはさまっているバーガーとオレンジジュースを食べました。マックとコカ・コーラがコラボしている限定グラスもくれて、兄の分までくれました。途中でパパがドーナツを買ってきてくれて、満里奈ちゃんと半分にして食べました。

朝食を終え、ベルリンに向かいました。車の中ではほとんど寝ていました。高速を降りるところあたりが昔サーキット場だったらしく、観客席がまだ残っていました。ベルリンに着いたらすぐにスターバックスでマンゴーフラペチーノを食べました。日本とドイツではメニューが違いました。途中でハンナと花織ちゃんが合流して、船に乗り、観光し、みんなで昼食を食べました。

カルボナーラとマルゲリータを3人で分けました。カルボナーラがとても濃厚でかなりお腹いっぱいになりました。昼食の後に、ベルリンTVタワーに行き、203mからの景色を見ました。日本と違ってとてもきれいでした。そこから歩いて車まで戻りました。

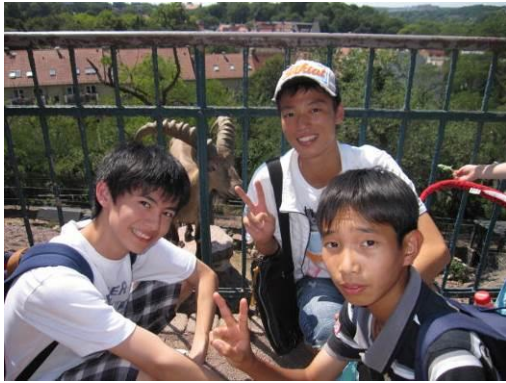
途中でカフェにより、久しぶりにノーマルウォーターを飲みました。けっこうのどがかわいていたので、とってもありがたかったです。日本の自動販売機はすごいんだなと思いました。今日も楽しかったです。

担当：濱邊 和奏





日時：平成27年（2015） 8月 3日（月曜日） 天気：晴れ



今日の日程

チョコレート工場見学
動物園で昼食
動物園見学
解散後、プールへ

今日はハレに行き、チョコレート工場・博物館の見学と、動物園に行きました。高速道路を使ったのですが、料金所がない事に驚きました。ドイツの高速道路は無料で使えるそうですが、その代わりに税金が高いそうです。さらに速度制限がないので、200キロでも300キロでもスピードを出していいそうです。

チョコレート博物館では、チョコレートは縄文時代から食べられていて、多くの人はずさわって今のチョコに至っていることを知り、長くたくさんの歴史があることを学びました。昔、工場では38時間かかっていたチョコ作りも今では3分で出来るようになりました。チョコレートはおいしかったですが、僕には正直甘すぎました。

動物園で食事を済ませると、全員で動物を見ました。マップに蜂のマークを見つけたので見に行きましたが、飼育していたところは小さくて「野性と変わらないのでは？」と思いました。少し期待はずれでした。

解散してから僕はヨナスと一緒にプールに行きました。他のホストファミリーも来て泳ぎましたが、とても寒く深かったのでギブアップしました。日本では多くのプールが飛び込み禁止ですが、このプールは飛び込みOKだったので、みんな飛び込んでいました。僕は飛び込まずに帰ったので悔やんでいます。今日はとても充実していました。もうこの研修も半分を切ったので、しっかり楽しんで日本に帰りたいです。

担当： 桑原 健伸





日時：平成27年（2015） 8月4日（火曜日） 天気：晴れ



今日の日程

ドラム（太鼓）ワークショップ②
青少年の家で昼食
カヌー体験
解散

今日は午前中2回目のドラムワークショップだった。前回教えてもらったリズムを使ったり、新しい楽器を鳴らしたりしてCDに使う音楽を録音した。どんなCDが出来るか予想が全くつかないけど、きっと面白いのが出来るのだと思う。楽しみ。

その後、自分のドラムを作った。それぞれ植木鉢のドラムに絵を描いたりビーズをのせたりしてオリジナルのドラムが出来ていた。のりとペンキが乾いたら完成だという。はやく叩きたいな。

午後はカヌーをこいだ。自分にとっては初カヌーで難しかったけど、ヨナスたちドイツ人がリードしてくれたからなんとかこぐことが出来た。自分はその後調子に乗って1人用のカヌーに乗ったが、バランスを取るのが難しいうえまっすぐ進まない。楽しかったけど、あれを上手くこぐには練習が必要だ。

担当： 岡村 志生





日時：平成27年（2015） 8月 5日（水曜日） 天気：晴れ



今日の日程

ネブラ博物館見学
昼食
アスレチックの森
解散

今週に入って暑い日が続く中、昨日雨が降ったお陰で今日は少し涼しい1日だった。今日はネブラ博物館見学と、ナウムブルクのアスレチックの森で沢山遊んだ。その後、青少年の家に到着し解散後、ドイツ人の友達ハナの家で「Movie Party」をした。

まず、ネブラ博物館見学では、実物大の天体盤や3Dを使って分かりやすく説明して下さり、とても興味深かった。1番印象に残った話は、天体盤が最初はブラックマーケットで売買されていた事だ。しかも、150万円で売買されていたそうで、価値に対してとても安い金額だった。その後プラネタリウムも見られて大満足だった。

昼食の後、私たちはナウムブルクにあるアスレチックの森へ行った。装備をつけてそこで遊ぶためには命綱が必要だと言われた時には凄くドキドキした。なぜなら私は高所恐怖症だからだ。コースが5段階に分かれていて説明を受けた後、友達と一緒に中級コースへ進んだ。地上約8メートルは思っていたよりも高く、上に上がっただけで私は「ダメだ」と思ったが、友達と声を掛け合いながら進んでいくとだんだん楽しくなってきた。地上に降りた時には怖いけれどもう1度チャレンジしたいという気持ちが勝りグレードを2つあげ、ハイレベルのアスレチックにチャレンジした。その横で私たちより遥かに小さい地元の女の子たちがスイスイ進んでいて本当に凄かった。とても怖かったけれどもとてもいい思い出にもなった。

青少年の家に帰ってきて一旦みんなと解散した後、「Movie Party」のためにハナの家にみんなで集まった。チョコレートフォンデュや大きなピザ、ハム、パンをみんなで食べながらたくさん話をし、素敵な時間を過ごした。映画はジブリ作品の「ハウルの動く城」を見た。見終わってから帰宅すると、まだ興奮が冷めておらず、レアと12時過ぎまでお互いの学校の事や好きなアーティストについて語り合った。言葉が通じなかったらジェスチャーをしたり絵を描いたりして伝えあい、それもまた楽しかった。ドイツの友達と実際にあってまだ1週間しか経っていないのにこうやって一緒に話をしたり、一緒に盛り上がりたりする事が出来てつくづく幸せだなと感じたし、この企画に参加できて良かったなと思った。あと5日という短い時間だけど一瞬一瞬を楽しみながらまた明日も過ごしていきたいと思う。

担当： 西木 聖夏





日時：平成27年（2015） 8月 6日（木曜日） 天気：晴れ



今日の日程

中部ドイツ褐炭採掘会社見学
昼食
青少年センターで夕食（スープ）作り
解散

今日は、広島に原爆投下された日のため、青少年センターに集合して、みんなで黙祷をしました。あれから70年たちましたが、決して風化してはいけないことだと思います。

それから中部ドイツ褐炭採掘会社へ行きました。ドイツには3つの褐炭採掘があるようで、その中でもこの褐炭採掘が一番小さいと聞きましたが、とても広くて驚きました。また、褐炭採掘が出来なくなった場所は湖などに生まれ変わるそうです。森にするか、湖にするかなどの決定権は会社にあるのではなく市長にあると教えてもらいました。中部ドイツ褐炭採掘には長い歴史があることを知り、日本でもこのような体験はなかなか出来ないので、ドイツでこのような機会を設けていただき、とても光栄でした。

そのあと、青少年の家に戻ってお昼ご飯を食べました。蒸しパンとブルーベリーソースで美味しかったです。このブルーベリーで私の視力が回復するといいなあと思いました。お昼ご飯を食べた後、自由時間があったので私はポンポンを作った後、ビリヤードや卓球をしました。みんな明らかに卓球の腕前が上がっています。ポンポンは飼っている猫におもちゃとしてプレゼントしようかと思っています。また一つ思い出の品が増えて嬉しいです。

自由時間の後、みんなでスープを作りました。日本ではあまり見ない野菜もありました。しばらく野菜を食べていなかったのが美味しく食べ過ぎてしまいました。しばらくしてお迎えが来たのでホストファーザーの会社に行きました。少し遠くのアイス屋さんにも連れて行ってもらったのですが、行きは和奏ちゃんがバイクに乗せてもらい、帰りは私がバイクに乗せてもらいました。大きなパフェを食べてとても幸せでした。パフェ屋さんで飲んだジュースに氷が入っていたので嬉しくて思う存分食べました。私たちを喜ばせようと素敵なサプライズしてくれたホストファミリーに感謝したいです。私自身初めてバイクに乗ったのですが、そこから見た夕日がとてもきれいでとても心に残っています。

ホストファミリーありがとう。

担当： 池尻 満里奈



日時：平成27年（2015） 8月 7日（金曜日） 天気：晴れ



今日の日程

和食調理
送別会の練習
プール
送別会
解散

今日は送別会の準備を朝行った。みんなで分担して肉じゃがやお好み焼きを作ることに
なり、僕は肉じゃがを担当しました。肉や人参をみんなと一緒に切ったり、玉ねぎが目
にしみたのも、楽しい思い出になりました。

午後は、3時ぐらいにプールに行きました。1時間程度でしたが、プールで泳いだり、
4. 5mの飛び込み台が飛び込んだのがとても楽しかったです。紗友稀先輩が監視員に注
意されたのが面白かったです。

その後は送別会を行いました。ソーラン節を踊ったり、バルーンアートをしたり、いろ
んな参加者の方々と写真を撮ったりしました。送別会が終わった後、シモンとパーテ
ィーに行きました。プールで飛び込んだり、すいかを被ったメロンキングに会ったりしま
した。そこで寝たのですが、夜中の3時に起こされ、別のパーティーに行きました。そこ
でまた寝て、昼からライブツィヒのプールに行きました。

青年の家とお別れというのが、とても寂しかったです。また、ドラムワークショップの
マリオさんに会えなくなるのが悲しかったです。

ただ、みんなと一緒に写真を撮ったり、遊んだりするのはとても楽しくて、時間を忘れ
るほどでした。

担当： 松塚 道頭



日時：平成27年（2015） 8月 8日（土曜日） 天気：晴れ



今日の日程

受入家族の企画

受入家族の企画

今日はドイツ最後の日です。まず駅に行ってみんなと合流して電車に乗り、ライプツィヒに行きました。ドイツに来て初めて電車に乗りました。日本の電車と違うところは電車内でも切符を買うことが出来る点です。30分位電車に乗ってライプツィヒに行きました。駅の中にはたくさんお店がありました。日本にもあるクリアーズに入ってみんなでサングラスをかけて写真を撮ったり、お買い物をしました。靴屋さんに行ってスニーカーが安かったので璃子ちゃんとおそろいの靴を買いました。ドイツで靴が買えると思っていなかったなので、日本で大切に履こうと思います。とてもいい記念になりました。

お昼ごはんはピザを食べました。大きいけど2.4ユーロで安かったです。日本のピザと違ってドイツにはパイナップルがのったハワイアンピザがありました。とても美味しかったです。いろんなお店を回った後、みんなでフローズンヨーグルトを食べました。私はチョコソースがかかったものを食べました。私の住んでいるあたりにはフローズンヨーグルト屋さんはないので、ぜひ近くに出来て欲しいなあと思いました。

最後はまた駅まで歩いて電車に乗りました。最後に、See you tomorrow morning と言って、みんなとお別れするのが寂しかったです。今日で終わりと思うととても寂しいけれど、日本も少し恋しい気がします。ドイツ最後の一日を素敵な一日にしてくれたドイツのみんなと仲間たちに心から感謝したいです。

最初は戸惑っていたお金の払い方も、今ではちゃんと小銭を使って払えるようになりました。

担当： 池尻 満里奈





日時：平成27年（2015） 8月 9日（日曜） 天気：晴れ



今日の日程

ライブツィヒ空港→フランクフルト空港

→中部国際空港→福岡空港

→鳥栖市役所→解団式

解散

今日はドイツのみなとお別れをする日でした。いつも何気なく食べていた朝ご飯も最後になり、寂しくなりました。最後の朝ご飯は家族みんなで食べました。私がヌテラを塗ったパンを落としてしまい大変でしたが、みんなが笑って食事をすることができました。

私のホストファーザーは仕事だったため、空港には来ることができず家の前でお別れをしました。でも、2週間の感謝と思い出などが頭に浮かび、涙ぐんでしまって、伝えたかったことが上手く伝えられませんでした。初日は「長いなあ」と思っていた空港までの道のりも、この日はとても短く感じました。空港に着いたらみんなが一生懸命トランクを開けて、荷物の詰め替えをしていました（空港では、なぜか車の前でみんなで写真を撮りました。）

私はホストファミリーやドイツでできた友だち、このプログラムでお世話をしてくださった人とお別れをするのが本当に悲しかったです。たった2週間でたくさんの友だちや、お別れをするのが嫌だ、と思えるような人ができたことに自分でも驚きました。日本ではなかなかしないハグを、みんなとしてお別れをしました。

私を家族として暖かく迎えてくれたホストファミリー、一緒に行動をするうちに仲良くなった、日本とドイツのメンバー、交流事業に関わってくれたみなさんに本当に感謝しています。必ずこの経験は今後の自分の人生に影響すると思います。この事業によって得た知識やコミュニケーション能力、そして友人など、様々なものを大切にしていきたいです。

来年、みんなと再会するのが楽しみです！！

担当：八尋 花織





日時：平成27年（2015） 8月10日（月曜日） 天気：晴れ



今日の日程

中部国際空港→福岡空港

→鳥栖市役所到着

解団式（帰国報告）

いつものようにご飯の合図の鈴が鳴って、マリーと一緒に食卓へ向う時間がとても暖かく感じられる、そんな1日の始まりでした。今日までこんな私を迎え入れてくれた大好きなマリーの両親、飼い犬のアンニャ、鳥のオーリーとは再び会える日が来るのかな、と考えるととても悲しい気持ちです。

最初は不安しかなかったこの研修も、時間が経つに連れて楽しい、という気持ちより幸せだな、という気持ちに変わっていきました。そう思えた1番の理由は、やはり仲間の存在でした。騒ぎすぎて怒られたり、分からないことを相談しあったり、アイスやパンを半分こして食べたり、その小さなことがどれも本当に幸せな時間だったな、と感じます。ドイツでできた新しい仲間達も、皆本当に優しく、明るくて、一緒にいて元気がでてくるような存在になりました。日本に着いてもLINEやTwitterを通して交流できることがとても嬉しいし、恵まれているなと思います。

帰国してもずっと一緒にいた団員の皆と離れ離れになることが信じられず、まだ一緒にいたいな、という気持ちでいっぱいでした。だけどそんな時も「これからも頑張ろうね。」という団員からの言葉で、次会う時までにもっともっと成長していたいな、と思うことができました。

来年はドイツの仲間達が日本にきて、私たちが迎え入れる番なので、私たちが経験した素晴らしいホームステイと同じように、楽しい楽しいホームステイにしてあげたいなと心から思います。

担当： 守田 茉央

